

〔2〕 話題による学習指導の例

次の例は 話題による学習指導の例である。

(1)「発表会をしよう」(2)「手紙を書こう」は、その全部の指導案の例であり、(3)「夏休みの日記」は、その中での特に言語技術の指導の例である。話すこと、書くことなどの学習は、自然、話題を設け、生活経験をもとにして学習していくことになるので、これらの指導案はその例とすることもできる。なお、(3)「夏休みの日記」は、教科書による学習指導の一部とすることもできる。問題による学習指導の際の学級別学習指導観察記録簿の記入のしかたは、〔3〕「学級別学習指導観察記録簿記入要領」の(2)(本書：76ページ)にいうように、本書の83ページの様式に従って記入する。

(1)「発表会をしよう」

1 この指導案を設けたわけ。

(1) 国語学習は、いつも児童の日常生活を土台として言語経験をできるだけ効果的に能率的に営ませることに基礎をおく。児童の日常生活内の事実を取り上げ、それを吟味し、肉づけることが第1歩である。

(2) 発表会は、児童の日常生活を土台にした最も生活に直結する総合的な国語学習の場である。児童は入学以来、絵日記や観察日記、読後感、見学記、研究報告などによって生活事実をふり返り、主観的叙述・客観的叙述をし、自己反省と自己記録の道を細々ながら切り開きつつある。そして、口頭で、また文章で、しばしば発表会をもってきた。これら一連の学習のねらいは、児童が自分のしたことをかわりやすく、正確に相手に知らせることができるようになる、という一つのことに尽きるといえる。

(3) 自分の経験したことを、わかりやすく、正確に相手に知らせることは、(小にしていえば)国語学習の出発点であり、(大にしていえば)国語学習の到達点の一つであるといえよう。

(4) 児童が、将来社会生活を営む場合、創作をする楽しみをもっ

たり、文学を楽しんだりすることは少ないかもしれない。けれども、自分のしたことを思い出し、これについて責任をもち、意見を述べ、まとめて計画したり、多くの人の中で報告したり説明したりすることは、かなり多いであろうと思われる。だからこのような能力を高めることは、社会生活において必要であるばかりでなく、児童の日常生活においても必要なことである。

(5) 発表会は児童の生活表現である。よい生活があってはじめてよい表現ができる。児童の表現には、現実と作品の間に距離はない。直接的な生活内の事実の表現である。だから、よい発表会をさせるには、よい生活をさせなければならない。

(6) この単元は、夏休みにより生活記録を書かせるために、よい生活設計をさせ、それを実行させ、発表会を開くこととして設定したものである。

(7) ここでは、夏休みの広範囲な、豊富な生活経験のなかにローマ字を有効に使う機会をつかませ実行させ、総合的な国語学習の成果を期待し、ローマ字教育の現段階までの成果と問題点を発見しようとするものである。

(8) 児童は、初歩の段階を終えて、やや進んだ段階に移り、第1段階の指導で書くことに重点をおいた学習を終えた。これからは、ローマ字を、日常生活にも、学習の全領域にも、可能な範囲において、どしどし有効に使うことによって、その効果が期待されるからである。

2 目 標

(1) じょうずに話そうとする心構えができる。

(2) 読んだ本や、研究・観察・調査・実験など、したことのまとめについて簡単に順序だてて報告することができる。

(3) ある程度、話の切り出しや結びをじょうずにすることができる。

(4) 適当な速さで、(音量・発音に気をつけて、) 方言を使わない

で話すことができる。

(5) 人の話を注意して聞くことができる。

(6) 儀礼的でなく、知識を求めるために、また、相手の意見を尊重して話を聞くことができる。

(7) 人の発表を聞いて、それがよくわかる。

(8) 聞くことによって、語彙が豊富になる。

(9) いろいろな読み物に対する興味が増す。

(10) 多くの作品を読んで、書く能力が高まる。

(11) 読書・研究・観察・実験・調査によって得た知識をまとめることができる。

(12) 問題を解決するために参考書などを読み、辞書類が使えるようになる。

(13) ローマ字書きの資料を求めて読むようになる。

(14) 読んだ本のあら筋や感想を書くことができる。

(15) 研究・見学・観察・調査などの記録や報告の文を書くことができる。

(16) 多角的に取材して、まとまりのある生活日記を書くことができる。

(17) 読みやすい効果的なローマ字文が書けるようになる。

(18) 小見出しをつけて効果的な文を書くことができる。

(19) 原稿用紙が使えるようになり、いろいろな表や図表が効果的に能率的に書けるようになる。

(20) 学習指導要領（国語科編）の 287 ページ～291 ページに示された「やや進んだ段階」の「読むこと」の目標、「書くこと」の目標を適切有効に達成できるようにする。

3 内 容

(1) 話し合いによって、夏休みの生活設計・研究計画、発表会の計画などをたてる。

(2) 発表会で発表ができるように、読んだり書いたりする。

(3) 説明や報告，お話の本を読んだり，しかたを練習したりする。

(4) 研究・調査・観察・見学などをまとめて報告や説明をする。また作品の展示もする。

(5) 日記や詩の朗読をしたり，それらの作品を展示したりする。

(6) ノートやメモを見ながら読んだ本（伝記・物語）の報告をする。

(7) 人の発表を聞いて感想や意見を述べる。

(8) 自分の考えと違ったり，または疑問の点を質問する。

(9) ローマ字をどこで，どの程度に使えるかを考え，実行する。

4 資 料

(1) 教科書。

(2) 郷土の歴史・伝説，偉人の伝記，童話，物語など。

(3) 観察・飼育・研究・調査などの記録。

(4) 日記・読書ノート・新聞・ラジオ など。

5 学習活動

〔夏休み前〕

(1) 夏休みの生活を表現した作品を陳列したり，それについて話し合ったりする。

a 第3学年のときの保存作品や前年度の第4学年のものを参考資料にする。

b 特にローマ字の作品を豊富に用意する。

(2) 夏休みの暮らし方を調べる。

a 個人的な生活と集団的な生活に分ける。

b 個人研究と共同研究に分ける。

c 前学年のときのことなどを反省する。

(3) 研究計画などについて話し合う。

a どんなものが研究の対象となるか。

b 社会科的なもの，理科的なもの，文章表現によるもの（詩・

日記・読書ノート・見学記・旅行記など), 図工的なものなどに分けて話し合う。

(4) 発表会の計画をたてる。(第2学期にも行う。)

a 夏休みの生活記録を中心に発表会を開く計画について話し合う。

b 発表会の方法・形式・内容について話し合う。

c 発表のための研究・調査の方法を考えたり, 友だちや先生と相談する。

(5) 教科書について, 関係のある題材を学習する。(第2学期にも行う。)

a 漢字かなまじり文の資料も進んで活用する。

b 発表会に必要な技術的な内容的な面をローマ字文から, じかに身につけさせる。(会のもち方・進め方・案内状・プログラムの書き方, 記録のとり方と読み方, 日記, 作品の見出しなど。)

c ローマ字をどんなところに, どんな程度に使えるか, また使ったらよいかを話し合う。

(6) 特に生活記録のうち, ローマ字書きで表現することの有効な面を話し合う。

a 漢字かなまじり書きの作品とローマ字書きの作品とを比較検討する。

b ローマ字書きにしたほうが有効なもの, また現在までの力で可能な面を決める。

c それに必要な書くことの実力を確実にする。(第1学期のまとめ。)

〔第2学期〕

(7) 発表会の練習をする。(夏休み中にグループごとにやってもよい。)

a 姿勢・発音・声量に注意する。

b 絵・グラフ・図表などを使ってわかるように話す。

c 初めのことば, 終りのことばに注意する。

(8) 発表会を開く。

- a 案内状を出し，プログラムをつくる。
- b 発表会の役割を決める。(司会・進行・記録など)
- c 発表する。
- d 展示する。
- e 発表会の途中などで，発表や展示について質問したり，感想を述べ合ったりする。
- f 教師の指導によって，発表されたり，展示されたりしたの
から問題点を拾い出す。
- g 適当に機会を設けて先生や父兄の批評を聞く。
- h 来賓代表のあいさつを聞く。

(9) 反省会を開く。

- a 発表会全体の反省 —— 計画・内容・発表のしかたなどにつ
いて話し合う。
- b 教師の指導によって，ローマ字書きの作品の中から，やや進
んだ段階に必要な点を抜き出して研究する。
- c よい点を伸ばし，直す必要のあることについて話し合う。

6 評 価

目標に照し，主として次の点について評価する。

- (1) 発表会の計画が順序よく話せたか。
- (2) 発表の態度や心構えが理解できたか。
- (3) いろいろな生活経験をまとめて効果的に能率的に書けたか。
- (4) はっきりとわかるように話せたか。
- (5) 今後の文章表現のうえに，計画性・綿密さがどの程度現れた
か。
- (6) 参考書類を問題解決のために利用できたか。
- (7) 感想を述べたり質問をしたりすることができたか。

(2) 「手紙を書こう」

- 1 この指導案を設けたわけ。

ローマ字教育が国語教育の一環として取り上げられた以上

(1) ローマ字教育を国語教育の中にどう位置づけたらよいか。

(2) ローマ字と漢字・かなとを、どう関連づけたらよいか。

の2点が大きな問題として考えられる。

入門期では、国語教育本来の目的もある程度達せられたとはいえ、文字そのものの読み書きの習得に多くの時間を費してきた。ところが、第2年度になると文字の抵抗は非常に少なくなり、漢字かなまじり文に比べて読み書きの速度はおそいのが普通だが、とにかくどんなローマ字文でも読み書きできる段階になった。文字の抵抗がなくなれば、その学年相応の教材を与えることができる。つまり、入門期ではその内容が漢字かなまじり文に比べて非常な隔たりがあったが、第2年度からは漢字かなまじり文とまったく同じ程度のものを与えるわけである。ここに漢字・かなで書かれたものと、ローマ字で書かれたものとを、どんなふうにかみ合わせていくかが大きな問題となる。

教科書中心主義の考えで指導を進めていくとして、たとえば漢字・かなの教科書に「手紙」の題材があり、ローマ字の教科書にも「手紙」の題材があるとすれば、それらを別々に指導するということは大きなむだである。

このような考えから、ローマ字と漢字・かなとをじょうずにかみ合わせたカリキュラムが考えられると思う。

今、両方の教科書に「手紙」の題材があったとして、それを実際の授業でどう取り扱ったらよいか、参考として具体例を示しておく。

2 目 標

(1) 読むこと目標

- a 自分あての手紙を喜んで読むようにする。
- b 手紙文の形式をよくのみこんでいて、要点を読み落さないようにする。
- c 手紙を読んで、すぐにどんな返事を書いたらよいか分かるようにする。

(2) 書くこと目標

- a 招待文・見舞文・礼状・近況を知らせる文などを書けるようになる。
- b 表書き・裏書きなどを形式に従って書けるようになる。
- c 三つの段落の文が書けるようになる。
- d 手紙は事がらを順序よく書き，ことばづかいに注意して書くようになる。
- e 手紙を受け取って返事を要するものは，すぐに返事を書くようになる。
- f 要点をはっきり書くようになる。
- g 数詞・助数詞の書き方。

(3) 言語技術

- a 常体と敬体
- b 接続詞と接続句，および副詞と副詞句。
- c 接頭語
- d 分ち書き

3 時間配当

(5時間～12時間)

4 資料

- (1) 漢字かなまじり文の国語教科書。
- (2) ローマ字文の国語教科書。
- (3) 各種の手紙文。
- (4) これまでに受け取った手紙。
- (5) 手紙文についての参考書。
- (6) 封筒・びんせん・はがき・切手 など。

5 学習活動

- (1) 学芸会（または運動会）が近づいて，児童が自発的に招待文を書きたいということを出したら，適当に取り上げる。（もし，それがない場合は，「学芸会が近づいたが，皆さんのうちの

人は見に来ますか。」 「親類や友だちに来てもらいたいとは思いませんか。」 という問を投げかけ、「親類や友だちに来てもらうにはどうしたらよいか。」ということから招待文を導き出す。

招待文のことから、次のような話合いをする。

- a 招待文を書く場合はどんな場合があるか。
- b どんな気持で書いたらよいか。
- c 今まで受け取った自分あての手紙にどんなものがあるか。
それらと招待文とはどういう点が違うか。
- d ローマ字書きの手紙をもらったことがあるか。
- e 自分あての手紙をみんなで持ち寄って整理してみよう。

(2) 以上の話合いから児童自身で学習の計画をたてる。

- a 持ち寄った手紙を整理する。
- b 手紙の参考文（主として教科書）を読む。
- c 招待文を書く。
- d 実際に表書き・裏書きを書き、切手をはってポストに入れる。
- e 反省

(3) 持ち寄った手紙を整理する。

- a 持ち寄った手紙に目を通す。
- b 手紙にはどんな種類があるか話し合う。
近況報告・見舞・招待・礼状・年賀状・案内状・問合せなど。
- c ローマ字、漢字・かなの区別なく種類別に分ける。（グループごとに分担させる。）
- d 種類別に分けて整理したものを発表し合う。
- e ローマ字の手紙と、漢字・かなの手紙の形式・内容について話し合う。
 - i- 表書き・裏書きの違い。
 - ii- 切手をはる位置。
 - iii- 封書の場合、相手の名まえ（あて名）を書く位置、日

付を書く位置。

-iv- 内容はどうか。

「拜啓」「啓具」などのことばが漢字かなまじり文の手紙に書いてあった場合、ローマ字文の手紙でもそれらのことばをそのまま書くほうがよいかどうか。

また、むずかしいことばを使った手紙はないか。ローマ字で書き直してもよくわかるようなことばを使っているか。

注：適当な漢字かなまじり文の手紙を黒板の半分に書き、ことばづかいなどにも考慮して、それをローマ字に書き直したものを黒板の他の半分に書いて形式内容について比較させる。

(4) 手紙の参考文を読む。

ローマ字文と漢字かなまじり文の国語教科書の両方に手紙の教材が出ていれば最もつごうがよい。もしなければ、文集その他の参考資料を利用する。

細かい指導については、次のような学習が予想される。

- a 差出人と受取人との関係。
- b 差出人はどんな気持で書いているか。
- c 手紙の目的にかなった内容を書くにはどう書けばよいか。
- d 文の組立について。
- e 要点はどこにあるか。
- f 常体と敬体について。
- g ローマ字で書く手紙の形式について。
- h 漢字・かなで書く手紙の形式について。
- i ローマ字の教科書で、数詞・助数詞の書き方、接続詞・接続句、副詞・副詞句、接頭語の指導をする。
- j 漢字かなまじり文の教科書では新出文字の指導をする。

(5) 招待文を書く。

- a どんな内容を書いたらよいか、封書にするか、はがきにするかなどを話し合い、ローマ字で下書きを書く。

- b 書いた下書きを發表し合ったり，交換して読み合ったりして批評し合う。
- c 分ち書きについて適宜指導する。
- d 悪いところを直して清書する。
- e 封書の場合，表書き・裏書きを書いて出す。
- f 2通以上出す児童には1通は漢字・かなで書かせる。
- g 時間が許せばほかの種類の手紙を書く。

(6) 反 省

手紙のたいせつな意味と心構えについて話し合う。〔学習指導要領(国語科編)242ページ参照〕

6 評 価 (略)

注：(1) 個々の目標と評価は省略した。

(2) 能力別指導をどうするかについても省略した。

7 備 考

「手紙」の題材は書くことの指導に適した題材である。児童にとって興味があり，具体的であるからである。

児童たちが相互に手紙を交換し合うことは望ましいことである。そうすることによって互に励み合い，書く力も一段と伸びるであろう。

(3) 「夏休みの日記」

書く能力が相当に伸びてきたはずであるから，夏休みには，多くの児童は生活日記やいろいろな観察記録や先生や友だちへの手紙などをローマ字で書くことができたと思う。その日記文や記録文を材料にして，次のような言語技術の指導が考えられる。

- 1 書く事がらを選ぶことに注意を向けさせる。
- 2 順序だてて書けるようにする。
- 3 要点をつかんで相手にわかるように話す。
- 4 考え・感じ・理由・意見・事実を表わした文をそれぞれ区別する練習をする。(ローマ字文で提示する。)
- 5 話を聞いて感想や意見をもつ。

- 6 記録文のどこに必要な事がらが書いてあるかを早く見つけ出す練習をする。
- 7 自分で書いたものを見ながら要点をつかんで、相手にわかるように話す練習をする。
- 8 自分の書いた日記文を読み返してみて、反省したことの要点をノートに書く。(もちろん、ローマ字で書く。)
- 9 その文に出てきた符号について、その使い方を多くの例をあげて練習する。

〔学習活動の例〕

- 1 日記帳の展示会を開く。
- 2 自分の作品を読んで、組の者に聞かせる。
- 3 友だちととりかえて読む。
- 4 批評し合う。
- 5 日記帳の次のような批評を教師から聞いて反省する。
 - (1) 遊んだことばかり書いていた。
 - (2) やったことばかり書いていた。
 - (3) 見た、思った、聞いた、反省したことなどが書いてなかった。
 - (4) 天気の様子や、曜日 (Kay., Kiy.) が落ちていた。(Kay. は火曜日。Kiy. は金曜日、またはKin. とも書く。)
 - (5) 簡単ではっきり書いてあった。
 - (6) すっきりとした書き方であった。
- 6 模範となる日記文を印刷して児童に配り、読ませ、自分のものと比較させ、次のような点に注意させる。
 - (1) 毎日行われる平凡なことを全部書こうとすると、1日の日記を書くだけでも、たいへんな分量になり、またそんなことを書きとめておいてもおもしろくないことを知らせる。
 - (2) 日記はもともと他人に読ませるのが目的ではないから、自分のしたこと、感じたことのありのままを書くことが必要であ

る。

ありのままというのは、どう感じたか、どういう反省をしたか、どう考えたかをそのまま書きしるすことであることを知らせる。

(3) 昔のすぐれた人々の日記が価値のあるものとされているのは、その人の心の光がそのまま写し出されているので、読む人の心を打つからであるということに注意させる。

(4) 日記をつけることは自分の進歩・成長のあとを省み、その日の自分を反省するために、楽しくまた有益であることに心を向けさせる。

7 次のような文を2, 3種ローマ字で板書して考えさせる。

たとえば、

ぼくは、いままで銀行へお使いに行ったことがなかったが、きょうはじめてお金をあずけに行った。

これは日記に書いておく価値があるでしょうか。

8 豊かな日記文が書けるためには、次のような練習も必要である。

(1) 次の文の中で、(a) 感じたことを表わしている文と、

(b) 考えたことを表わしている文とを区別しましょう。かっこの中に a, b の文字を適当に入れさせる。ローマ字文で板書, あるいは印刷する。

○あの人はたいそう太っていてじょうぶそうだ。()

○校庭で野球をすると、ガラスをわりやすい。わらない方法はないものか。()

○夜、林の道を行くと、風で木の葉ががさがさするので、たいそうこわい。()

(2) 次の文を意見・事実・理由を述べたものに分類させる。かっこの中にその種類を入れさせる。(ローマ字文で板書, あるいは印刷する。)

○ごはんを食べる前に手を洗うと、手についているきたないもの

やばいきんが口へはいるのを防ぐことができる。()

○不注意だった人やあやまちをした人をいじめたり、憎んだりするよりは、不注意やあやまちの原因を取り除くほうがたいせつだと思ふ。()

○こども会の規則が、よく守られていない。()

(3) 思ったことを簡単に言うときのことばを集めてみよう。(ローマ字でノートに書かせる。)

(ウレシイ、タノシイ、ヤカマシイ、サビシイ、キレイ、コワイなど。)

9 上の文に出てきたアポストロフ (gen'in) の使い方について例をたくさんあげさせる。

{ hon'ya, sekitan'ire, tan'i, kin'yôbi, sen'in,
Yamamoto-Ken'iti など。 }

(備考) この学習活動例を全部続けてやるのには、3時間ぐらゐを要するであろう。

[3] 学級別学習指導観察記録簿記入要領

(1) この年度における学習指導については「小学校学習指導要領(国語科編)」およびこの本に従って、教科書を用いて指導するわけであるが、その際の教師のがわの教材研究、学習活動の予定と実際との学級別学習指導観察記録簿への記入は別紙「学級別学習指導観察記録簿(A, Bの本紙1, 2; 補助紙)」の様式(77ページ~79ページ参照)で、その記載上の注意事項に基いて記入する。

(2) 第2期以後、話題による学習指導をするときは、別紙「学級別学習指導観察記録簿(C, の本紙1, 2; Bの補助紙)」の様式(83ページ, 79ページ参照)で、その記載上の注意事項に基いて記入する。

A 本紙

学級別学習指導観察記録簿		() 小学校長 () 印		第5学年 () 組		担当教官 ()				
教材名		() 教科書の第 課 ()		() 日 () 分		年 月 日 ~ 月 日				
話 題		指導案の特殊の ねらいとその理由								
分 析	段落の数 総語形数 新しい単語	変化形		大文字・小文字の変化形		はじめて出てくる文の構造				
		新しい種類の変化形		新しい種類のことば		注意すべきことば				
提出手続で取り扱う予定のことば		A, B, Cの各グループ 共通に取り扱うもの		B, Cグループだけ に取り扱うもの		Cグループだけに取り 扱うもの				
実施の結果(提出手続が適当であ ったかどうかの判断)		Aグループ		B, Cグループ		Cグループ				
× 書くことの指導についての予定と 結果		予 定		予 定		結 果				
× 理解の問題の指導についての予定 と結果										
× 言語技術と言語能力の指導につい ての予定と結果										
		目 標	評 価	予 定		実 際		指導の 反省	カリキュラ ムの批判	その ほか
				時刻	学習活動	予定の 変更	観 察			
準備 第1回の読み 理解をためし, 深め る手続と読み返し		(あまり細かい 点は記入 しなくても よい。)	(あまり細かい 点は記入 しなくても よい。)							
言語能力と言語技 術の指導										
書くことの指導										

×一つの指導で二つ以上の欄に関係するものは, 一つの欄に書き入れればよい。「準備」以下の欄は適当に設ける。

B 本紙(1)

学級別学習指導観察記録簿		() 小学校長 () ④	第5学年 () 組	担当教官 ()
教材名	(a [x式])教科書の第(b)課(フシギナ キノハ [本書:41 ページ~43 ページ])	(2)日	(90)分	昭和(27)年(4)月(22)日~(4)月(30)日
話題	()	指導案の特殊のねらいとその理由	(ねらいは、下に書く以外の総括的なものだけをし)るす。理由は、特に考慮した点だけをしるす。)	
分析	<ul style="list-style-type: none"> 段落の数 3 総語形数 499 新しい単語 インド, リョウシ... [かたかなはすべてローマ字で書く] 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい変化形 アリノママノ [アリノママニは出たとして] 新しい種類の変化形 カサネラレテ (受身のラレル) 	<ul style="list-style-type: none"> 大文字・小文字の変化形 オーサマ, オーサマ タダ [小文字では出たとして] 新しい種類の語句 ツヅイテ (動詞からきた接続詞) アノ (強くさす意味を示す) 	<ul style="list-style-type: none"> はじめて出てくる文の構造 —スルガイイ —ガ(ハ)—イグラ—シテモ 複文の例 注意すべき語句 ドウシタ コトカ フシギナ コトニワ はじめて出てくる符号 :—(引用のまえのしるし) …(省略したしるし)
	<ul style="list-style-type: none"> 提出手続で取り扱う予定の語や句 	<ul style="list-style-type: none"> A, B, Cの各グループの [以下本書の 47, 48ページ] 	<ul style="list-style-type: none"> B, Cグループだけに扱うもの [62ページ参照] 	<ul style="list-style-type: none"> Cグループだけに扱うもの
<ul style="list-style-type: none"> 実施の結果 (提出手続が適切であったかどうかの判断) 	<ul style="list-style-type: none"> Aグループ 	<ul style="list-style-type: none"> B, Cグループ 	<ul style="list-style-type: none"> Cグループ 	
<ul style="list-style-type: none"> 書くことについての予定と結果 	<ul style="list-style-type: none"> 予定 	<ul style="list-style-type: none"> 結果 		
<ul style="list-style-type: none"> 理解の問題についての予定と結果 	<ul style="list-style-type: none"> [この五つの欄に特に取り出した指導の問題は、一つで二つ以上の] 			
<ul style="list-style-type: none"> 言語技術と言語能力の指導についての予定と結果 	<ul style="list-style-type: none"> [欄に関係するものは、一つの欄に書き入れればよい。なお、下の指導の段階の項に関係することであるから要領だけを書く。] 			
その他				

本紙(2)

学級別学習指導観察記録簿 () 小学校長 () ㊦ 第5学年 () 組 担当教官 ()									
教材名		(a [x式]) 教科書の第 (b) 課 (フシギ ナキノハ [本書 : 41 ページ ~ 43 ページ]) (1)		(1) 日 (45) 分	昭和 (27) 年 (4) 月 (22) 日 9 : 30 ~ 10 : 15				
話題		() 指導試案の特殊のねらいとその理由		(ねらいは , 下に書く以外の総括的なものだけをし) (るす。理由は , 特に考慮した点だけをしるす。)					
個々の 目標	評価	学 習 活 動					指 導 の 反 省	カリキュラ ムの 批判	そのほか (個人別の 観察・評価)
		予定時刻	予 定	予 定 の 変更場所	実 際 の 観 察	実 際 の 時 刻			
準 備		(指導の段階は , 適切に標題をつけて区分する。その記入は , 本書の 43 ページ ~ 62 ページのそれぞれの段階の指導例の)							
第1回の読み									

(補助紙)

個々の 目 標	評 価	学 習 活 動					指 導 の 反 省	カリキュラ ムの 批判	そのほか (個人別の 観察・評価)
		予定時刻	予 定	予定の 変更場所	実 際 の 観 察	実 際 の 時 刻			

(記載上の注意事項)

- (1) 学級別学習指導観察記録簿は、教科書による学習指導について書き入れる。
- (2) 学級別学習指導観察記録簿は、各時限ごとに書き入れる。
- (3) それには、別紙、学級別学習指導観察記録簿のひな型で示したような形式の紙を用いる。本紙・補助紙はいずれもB4判(わら半紙大)の紙を用いる。
- (4) 本紙(1)は、その教材(またはその一くぎり)全体にわたる記載であって、その教材(またはその一くぎり)が終るまで、続けてそれぞれの欄に記入する。
- (5) 分析は、その教材(または一くぎり)ごとに、教師の研究したところを書き入れる。
- (6) 本紙(1)の「この指導のねらいとその理由」の欄には、その教材(またはその一くぎり)の指導案全部のねらいを書き入れる。
- (7) 本紙(2)は、それぞれの時限のことを書き入れる。教材名のあとの(1)などの番号は、その教材におけるその時限の順序を示す。
- (8) 本紙(2)の「この指導案のねらいとその理由」の欄には、その時限の指導案のねらいを書き入れる。
- (9) 指導の段階の項は、指導の実際に従って適当に項目を書き入れ、その欄の広さについても、その実際に応じて幅を決める。
- (10) ときにより本紙に書ききれないときは補助紙を用いる。
- (11) 評価は、予定した評価を、実施した評価と実施しなかった評価とに区別して、予定して実施したのものには○印、予定しながら実施しなかったものには△印を前方につけて書き入れる。なお、予定しなくても実施したものには※印などを、やはり前方につけて書き加える。
- (12) 教科書以外に教材を使用したときは「学習活動」の欄にその教材(またはその概要)を添付する。
- (13) 「学習活動」は具体的に、その特色を生かして書き入れる。
- (14) 「分析」の記入のしかたは、だいたい「入門期におけるローマ字文の学習指導」の学級別学習指導観察記録簿の記載のしかたのとおりである

が、なお改めて注意すべき点を書いておく。

(a) 分 析

指導の実際を考えて教材を研究した結果を、教材についてはローマ字を用いて書く。

(b) 新しい単語

児童が読み書きするものとして、はじめて接する語形を(c)の場合を除いて書き入れる。「新しい」ということは、ローマ字の語形としてはじめて接したという意味である。

(c) 新しい変化形

動詞・形容詞・形容動詞などの類の変化形で、今までに出てきたものと違った変化形を書き入れる。

(d) 新しい種類の変化形

今までに出てこなかった種類の変化形の実例とその種類の名称(性質)とを書き入れる。[(c)、(d) ともに変化形は、接頭語・接尾語などのつくことばにも及ぼす。]

(e) 大文字・小文字の変化形

語本位に考え、同じ語形でその語頭が大文字のものと、小文字のものについて、はじめて出てきた違った形を書き入れる。

(f) 新しい種類の語や句

品詞またはその品詞の中で、他の品詞または他の類と違った働きをするものの実例とその性質とを書き入れる。

(g) はじめて出てくる文の構造

(i) 主語・述語・修飾語などの関係の新しいしくみのもの。

(ii) 文の構造の複雑さの増したもの。(複文など)

(iii) 命令・感嘆・叙述・疑問などの表わし方の違った形のもの、その他。

(h) 注意すべき語句

(i) 今までに提出された単語であっても、別の意味で使われるもの。

(ii) 特にむずかしくて、指導上くふうを要するもの。

(iii) 特別の句(慣用句、イディオム)の類。

(i) はじめて出てくる符号

その一つ一つについて使い方を書く。

C 本紙(1)

学級別学習指導観察記録簿		() 小学校長 () ④	第5学年 () 組 担当教官 ()	
話 題		1日 ()分	昭和 年 月 日 ~ 月 日	() 時 限 () 時 間
話 題 設 定 の 理 由 (趣旨)				
	予	定	実	際
目 標				
内 容 (言語技術) (時間配当)				
資 料				
学 習 活 動				
評 価 (反省・備考)				

本紙(2)

学級別学習指導観察記録簿		() 小学校長 () ㊟		第5学年 () 組 担当教官 ()			
話 題		1日	()分	昭和 年 月 日 ~ 月 日	()時限 ()時間		
この期のねらい							
	個々の目標	評 価	学 習 活 動			指導の反省	個人別の 観察評価
			予 定 時 刻	予 定	予定の変更場所		
準備(導入)							

(記載上の注意事項)

- (1) この本の「話題による学習指導の例」にならって、たとえば、a. 話題設定の理由(趣旨)、b. 目標(言語技術)、c. 内容(時間配当)、d. 資料、e. 学習活動(反省)、f. 評価(備考)など適当な項目を設けて、
b. 以下はそれぞれの予定と実際とを区別して書く。
- (2) 学習活動の各段階は、適当に項目を設けて書き入れる。書ききれないときは、Bの補助紙のような様式の紙をつぎたして書き入れる。